



大伴金道忠孝圖會  
後編

~ 13  
2692  
9





13  
2692  
9

忠義の爲ため小見意こみいの二子ふたごと捨す其身そのみも國くにと退のりひ依よて某たがひ龜山かめやまを遠針とほし針はりの從まひ  
 木兔うさぎ若わかと懐なつて深夜あやみ小脚こくわ母君ははきみ小見こみ龜山かめやまが忠義ちうぎの遠針とほし針はりを言い上かみ木兔うさぎ若わかと  
 君きみと取替とりか懐なつふいふもと城じやう内うちと忍しのび出いで思妻おもひつま少すく由よしと下くだり俱とも小園こゝろを  
 退のりて緒國いよこくを流浪りやうらう。遠とほ小當所こあつしよ小脚こくわと田某たがひが実名まことな六福むつぷく白虫しろむしとやせとの  
 早良はやら等らと伎ぎ小改こかい名な。脚身くわしんと天婦てんぷが中ちゆうの子こと云いて育進よくしんせりも彼かの金鳥きんちゆう殿との  
 方かた漏もれさへ入いり妻つまと悼なげりひをたり然しか小君こきみ天稟てんれんの才さい機き万人まんにん小勝こしょうひ文學ぶんがく武ぶ  
 技ぎ短捷たんせつ水術すいじゆつ達たつしゆらぎも濃のもたつ。実まこと小石こいしをちて盤ばんと知しりも英知えいちすく在あり  
 疾はやふも脚くわ由緒よしと告つげ大事だいじと明あり中ちゆう筋しんをたれも脚身くわしんハ人ひと小勝こしょうて氣速きそくれ  
 脚くわ本性ほんしやうあれが方かた一更いちぜう小逆こぎやくりの更ぜうと思おも過と唯ただ今いま子こと包つく隠かくしひひれ  
 さる小門こもん弟ていども他所たがひの脚身くわしんと木兔うさぎ若わかが多勢たかさの武士ぶしと半はん徴てうしゆらぎ由よし  
 とや来きりてとらぐ同院どうゐん仕しまら大勢たかさの者ものと兩人ふたり乃すなは小腕こでん小こちぢぢしゆらぎ半はん柄へ

とも中登るれども甚と危れ義あり。君子ハ危ハ迫寄む。世の誘ふも瞞す小羊  
なりとヤサシ。渠們陽明て拒敵叶はざるも陰ハ奸計を構ふ。瞞討せんと為  
す。たれ小はつむ。今中如く御身ハ金鳥殿と以テ大敵有る。討てハ叶はざれ  
む。本意と達し。今中如く御身ハ金鳥殿と以テ大敵有る。討てハ叶はざれ  
大謀と乱し。緘もあらず。張良ハ恥を忍ぶ。三度黄石公の水と取。遂ハ兵法の  
大事と授り。韓信ハ愧を捨て。市ハ股と潜り。終ハ灌ハの元師と成り。是皆よく  
忍の二字を守り。故ハ小はつむ。昔越の勾踐ハ吳王の石麻を嘗て。恥辱と忍び  
し。がれ擒と救され。自國ハ飯り。遂ハ吳王と亡し。會稽山の雪ハ石麻を嘗  
し。口と洗故。小今世迫恥を雪と雪の字と用い。復仇の大志と懐く者ハ此雪  
の文字と忠る。ま。死。聖人も暴虎憑河と悔を免る者ハ我ハ不子と  
短慮殺伐を緘り。君も以後ハ忍の二字と守り。雪の二字と肝ハ銘し。万

何妻も恥を忍び。短慮と慎り。と。始く由緒と明。理を尽。と。練。れ。金道  
丸大ハ狹。然。我ハ大伴の綱。又我ハ伯叔金鳥。如何なる奸討  
ふ。討。の。我母ハ何と成せ。いと。面色と変。と。向。結。白。虫。愁。然。と  
脚。ハ。金鳥殿。小。毒。殺。せ。れ。の。刺。ハ。鳩。尾。と。刺。通。され。空。成。る。又。脚。母。ハ  
隣國。豊前。の。住人。文屋。廣島。殿。の。息女。と。其。其。合。の。方。と。双。か。れ。美。人。と。在  
し。小。金鳥。が。無。体。の。息。慕。と。厭。の。自。害。と。其。其。砌。彼。木。鬼。若。も。已。小。責。殺  
さ。る。を。う。り。と。寛。平。白。狐。が。神。通。て。助。ら。れ。実。又。龜。山。が。石。上。の。雷。居。小。飯。り  
人。と。成。る。不。測。の。君。と。殖。遇。し。ま。る。も。主。従。及。せ。ぬ。奇。縁。小。の。と。語。と。多。の。小  
と。金。道。丸。ハ。父。の。母。と。金鳥。が。為。小。亡。ま。と。中。の。申。小。深。く。金鳥。と  
怨。又。父。母。の。命。の。死。と。痛。無。念。の。涙。と。愁。傷。の。涙。小。覺。を。膝。と。沾。し。る  
が。白。虫。が。る。前。の。愧。と。氣。と。取。救。平。の。さ。あ。る。体。小。緘。小。今。日。ハ。い。と。多。の

我素性又母の死も知れず年月を送りて今更力かり身ある大敵ある上も  
練すもたけ身慎み臆と嘗新臥て復仇の大義を計るる一其先且  
さ一此六龜山から脚身夫婦かり我難と救んと尋年の辛苦謝すも  
此上六龜山と高議一日も早く復仇の本意を遂るす頼念と言々るる  
白虫點首其仰とる迄もいざ念力八嵐も通るとも人遠々るる金鳥  
我討せ進まざり。さもあれ大義と弁せり。此此義露斗も日外志のふやどと  
口止一尚細く閑淡小旦と暮るる。斯く金道九白虫が物語とゆへり。深  
く金鳥が暴悪無道と怒憤り。如何もして仇を復し亡考妣の靈を慰ん  
ると。人志と百般思慮とを廻りくる。去程小春暮夏過て風の音ぞ  
かどろれゆると縁ぞ。秋の天中なり。一日金道九教場小く門弟們が  
物語とると安居るる。一人の者曰豊後の大友金鳥殿九列の探題職

上太宰の師と兼らるる。去年より太宰府下在番有るるが来る  
八月三日小太宰府と立本國豊後へ皈らる。由て其行装と見物せんと  
待者より程遠く白川堤と通らる。我れ見物小行をあんぐ  
何氣なく結合る。金道九耳小田心中大少怡須波究竟の時節来れ  
且と盲目龜の浮木小遭優曇華の花咲が如く再遭る。死時わく我れ  
白川堤の重敷小身と隠し。金鳥が通る。待り討取又母の仇を復んと。心  
の中思慮と定り。白虫小一應の高議もせむ。増す木兔若榿根們も深  
く隠し。密小其準備し。其日待り一日三秋を送る心地。程なり。七月も立  
る。八月も成る。愈心せし。其六かくて金鳥が當國へ来る。其頃二人  
們小探向小凡十五六日頃小當國を通らる。言ふより。千音の朝疾く壹岐  
乃社へ参詣とると言へり。入立出門人の中小郷民有る。其者許して弓箭及小

三浦史記卷之四十五

そのうさきくろくまとうろくけ。まろくつてまきまては。土着。うま。と腰  
簀竹を草刈鎌ホて借受。白川堤の長駿小到リ。簀竹笠を著。鎌と腰  
小き。短刀と懐中。弓を前と簀竹。て隠携。ゆゑ人の見咎る。つあ。六。草刈也  
と言鎌さんと心巧。昔笠茂り。る中小身と隠。と心中。小。弓。矢。八。幡。官。壹。岐  
乃神社を祈念。し。金鳥が通ると待々。と不敵。たり。る。借も。大友。金鳥。ハ  
太宰府勤番の年限満。れ。白鳳四年八月三日。小。太宰府。と。お。之。所。乃。政  
事。と。調。日。月。十五。日。前。随。後。後。の。列。を。平。白。川。堤。小。さ。り。る。其。行。装。最。り  
嚴重。小。花。麗。と。尽。前。驅。六。那。古。金。銀。と。中。臣。金。連。が。家。人。か。り。る。浪。人  
して。金。鳥。小。召。抱。れ。俵。弁。と。以。て。出。頭。此。度。の。先。驅。と。許。され。装。束。最。り  
お。扮。馬。上。い。ろ。く。お。せ。る。其。次。小。弓。矢。物。の。歩。平。五。六。十。人。を。二。行。小。並。せ  
て。歩。中央。小。大。友。金。鳥。著。笠。の上。小。此。系。の。唐。綾。の。鎧。直。垂。濃。紅。乃。大。と  
著。虎。皮。の。尻。鞆。小。金。造。の。大。太。刀。小。短。刀。十。文字。小。佩。添。黒。漆。乃。冠。高

頂。丸。青。龍。と。母。八。寸。小。金。る。黒。の。駒。小。金。覆。輪。の。鞍。此。紫。裾。濃。の。厚。綿。乃  
鞆。け。て。ゆ。る。と。お。兼。白。泡。喰。せ。て。と。歩。せ。る。後。從。八。垣。の。雅。明。是。す。と  
仕。家。束。馬。具。爽。小。刷。ひ。く。徐。小。駒。と。歩。せ。續。て。警。蹕。の。円。勢。弓。矢。戟。物  
次。携。て。隨。逐。し。る。金。道。凡。若。向。より。能。く。窺。ひ。を。返。弓。矢。お。番。息。と。結  
て。待。内。小。金。鳥。己。小。矢。頃。近。く。あ。ん。と。ま。る。小。何。と。う。ま。久。兼。る。馬。俄。小。高  
嘶。して。躊。躇。進。む。得。む。是。ハ。何。れ。と。金。鳥。ハ。半。綱。の。う。頻。拍。拍。を。入。れ。る。馬  
も。弥。嘶。く。進。ま。ざ。れ。金。鳥。怪。く。半。綱。ひ。く。四。方。を。睨。廻。し。噫。不。測。也。我。馬  
俄。小。進。む。と。心。得。ね。惣。と。良。馬。ハ。其。至。小。凶。変。ある。と。知。と。り。傳。言。晋  
乃。趙。襄。子。馬。上。お。橋。上。を。通。り。る。小。其。馬。俄。小。強。嘶。く。進。ま。ざ。る。ハ  
是。橋。下。小。我。を。狙。者。有。り。と。覺。士。卒。小。命。と。橋。の。下。を。搜。せ。せ。れ。果。々  
豫。讓。と。捉。得。る。と。や。今。も。此。辺。小。我。を。窺。ふ。曲。者。有。り。と。覺。者。也。此

日本書紀卷之六十五



堤の両側と待立よと下知する間もなく、忽ち羽鳴して一筋の征矢金鳥が、  
飛来るふと早く直垂の袖と拂ひ捨る。金道九、甲矢を射損じ、乙矢を  
番人とする内疾士平、竹笠を待たれ、今、退死去ん、やうやく、是、延也  
と懐かしく七首抜持堤の上、躍出金鳥、小飛り、らん、と、金鳥鏡、乃、如  
れ、両眼と願、喘、睨、蹄、小、け、ん、乗、廻、と、内、金、銀、雅、明、両、人、も、馬、を、拍、て、り  
看、金、鳥、と、困、て、支、つ、り、金、道、九、無、念、の、齒、咬、を、な、り、猶、も、金、鳥、と、付、廻、し、  
糾、合、と、れ、も、両、士、是、と、支、つ、り、近、寄、せ、と、其、内、小、士、平、も、八、方、と、取、廻、を、ふ、よ、り  
弥、近、着、り、能、を、近、寄、士、平、と、切、散、。兼、て、馳、せ、り、狂、捷、に、群、る、士、平、乃、中  
より、一、躍、と、頭、上、と、私、越、若、回、隱、と、逃、延、多、く、誠、小、其、早、業、眼、小、見、留、る、更  
能、と、人、間、業、と、八、方、え、き、り、多、く、金、銀、雅、明、士、平、小、指、揮、。必、定、曲、者、八、方、の、内、小  
潜、居、あ、り、八、方、より、若、を、引、き、り、ひ、生、補、り、と、下、知、する、小、ど、承、り、ひ、と、大、勢、手、と

分、あ、り、う、ち、を、薙、拂、程、小、遠、小、入、の、総、角、頭、と、出、り、須、賀、曲、者、が、ん、た、ん、と  
大、勢、下、重、り、逐、小、捕、捕、て、金、鳥、が、馬、前、中、と、曳、居、多、く、金、鳥、執、視、と、渠、と、言、  
小、年、紀、十、五、才、許、の、少、年、小、く、身、小、義、者、一、鎌、と、腰、小、さ、り、金、鳥、言、と、発、し、  
と、何、國、の、者、小、く、何、れ、金、鳥、程、の、者、小、狼、藉、せ、り、明、白、小、白、状、せ、り、時、宜、ふ、よ、り、罪  
と、免、一、命、と、助、得、ま、と、奪、り、と、向、え、り、少、年、首、と、低、り、一、言、の、答、と、も、せ、り、金、銀  
雅、明、う、ち、も、威、り、者、り、百、般、の、向、も、猶、と、指、て、半、句、も、各、さ、れ、り、金、鳥、其、体、と  
と、先、刺、の、動、止、と、り、ひ、我、と、糾、合、と、担、小、尋、常、の、童、あ、り、と、本、國、(曳、行、水、入、を、以、  
と、踏、向、と、危、し、) 嚴、く、傳、り、我、乘、橋、小、ち、電、敬、言、固、忘、と、妻、勿、と、令、り、と、金、銀、  
們、千、筋、の、繩、小、傳、柄、り、橋、小、ち、電、電、四、方、と、堅、く、り、と、卷、目、と、昇、り、大、勢、別、後、と、  
固、り、た、れ、り、金、鳥、八、金、銀、雅、明、小、前、後、と、衛、で、路、上、用、心、嚴、く、し、と、其、日、八、旅、館、小、入、り、  
敗、と、く、る、斯、く、夜、も、明、と、り、た、れ、り、出、ま、せ、ん、と、り、小、囚、入、の、橋、と、警、言、固、せ、り、士、平、と、も

色と変どと還しと走り昨日の罪囚小朝餉をせりんと橋の戸を明け二頭の  
野干と変と繩と拔起出何國ともわく逃矢の顔如菜から糸つるなるおそ  
金鳥ととも雅明金銀も奇怪の妻おの急な驕を昇もそと檢らん小  
突も少年ハ有と幾重の繩縛し休小空蟬と野干の毛と覚る扱あつかと散乱  
有るれも各個果倍昨日捉一童野干と有とやと疑惑く不審暗され  
と己小逃矢上と搜し求るも得ぬと守と。警言固せ監率と散く小吐懲  
。為るるを其休小少捨ち旅館と少至本國と赴たる。

説往事虎躬諫金鳥 靈狐救大伴主臣

斯く金鳥主従ハ路次と急だ白村ハ賊者一々老臣と石虎躬城外と出  
迎へ城中入金鳥が面前出。長々宰府在番の勤勞と称きハ在番中  
乃巨細を司るる金鳥遂ハ絡せせ々々岸小白川堤小く少幸と生捕し更すこ

旅館おと野干と変と逃去義と語り畜生のふ際とと金鳥が威力を試  
んとせど可笑されとち突ひれも虎躬少時と考て眉と聳君ハ勇力宇  
宙小双よのなりとせども心おが脚思慮浅れ処の野干の類ハ何と君の如  
れ英雄ハ拒敵縋のいぬれ其つと往吏と考し小脚詮義密たふる吏  
ヨクハ其二ニヤま心馬来田公死去の後其長臣攝白虫都ハ上る音と書  
遺し逐電とと其休小捨置穿鑿なりと更た。又其容方自殺有  
節金道九と怪れた老翁の攫ひハ行方と成り成り成り其休小と吟味と  
もたつゆらぬ後患と慮りゆらぬお似たり且又牛尾が家人とも玉の仇魚山と  
討んと城外小埋伏して窺と処覆面サ大漢小兒を懐中して城内より忍出  
と亀山まろんを思ハ大勢取電て討留んとせぬ彼者勇猛武術技群小  
十人の對人を八入まぐ討つと退由其風絶と言上りつるも是又何の即詮



是彼を以て愚意を廻し、小彼性、死者の連去、小兒、眞の金道九殿、小てハ  
た、恐らく、白虫、早、主の兒、他人の兒と取替、彼城内より、忍出、曲者  
の懐て、退、小兒、眞の金道九殿、あ、んも、量、何、ま、あ、れ、金道九殿  
と存命せられ、下、年、數、等、ま、當、年、己、小、十五、成、ま、い、ひ、あ、れ、白虫、若  
幼主と懐て、退、他郷、養育、君と担、せんと、ま、あ、れ、あ、れ、白  
川、場、小、君、小、弓、彎、一、総、角、金道九殿、あ、後、小、昔、原、あ、搦、押、小、野、干、の  
化、あ、ん、奈、何、と、な、れ、君、と、針、と、ま、童、が、執、を、逃、去、と、れ、野、干、の、正、体  
と、顯、り、て、逃、ち、ま、近、ま、る、小、便、利、た、ま、れ、小、猶、人、間、の、姿、あ、て、逃、矢、り、ま、甚、心  
得、ま、い、何、も、あ、れ、金道九と、白虫、存、命、小、隣、國、小、隱、住、小、相、違、有、ま、す  
依、て、急、小、兩、人、配、符、と、ま、ま、九、列、二、島、の、守、護、人、國、司、們、觸、廻、穿、殿、を、せ  
ゆ、小、自、然、兩、人、の、所、在、知、い、ぬ、彼、們、世、小、在、て、八、脚、枕、と、高、う、志、の、ひ、が、り、と

理と、と、練、々、ふ、と、金、鳥、始、り、心、付、実、你、が、儀、論、り、理、あ、る、我、今、日、ま、て、ハ  
渠、原、と、れ、者、存、命、ま、ま、何、符、の、更、う、仕、出、ま、と、捨、置、し、思、を、油、断、大、敵、と  
你、祐、筆、の、者、小、命、白、虫、が、人、相、書、の、ひ、金道九、が、年、紀、格、好、と、ま、字、を、ま  
當、國、ハ、小、及、ま、九、列、二、島、の、國、司、郡、司、津、々、浦、々、ま、觸、廻、一、言、と、分、て、搜、り  
捉、り、ち、ま、小、命、を、れ、虎、躬、領、堂、一、退、て、祐、筆、們、小、指、揮、白、虫、金道九、の、配  
符、と、書、せ、火、急、小、九、列、二、島、觸、ま、ま、是、小、依、て、九、列、の、緒、司、金、鳥、が、命、令、と  
守、り、領、地、の、端、々、配、符、と、廻、り、を、其、風、貌、津、々、浦、々、ま、急、か、り、り、り  
却、銳、早、良、等、が、家、小、金道九、金、鳥、を、針、損、し、虎、を、通、り、我、家、小、級、り、り、り  
右、の、一、条、心、小、秘、り、外、せ、れ、白、虫、ま、知、者、更、小、か、り、り、り、然、小、先、年、金道  
九、が、為、小、擒、と、か、り、丹、生、櫻、根、ハ、其、砌、より、白、虫、の、下、僕、と、な、り、初、の、程、ハ、心、を、賣、て  
万、丈、慎、深、く、勤、ま、れ、も、生、得、不、正、の、性、あ、れ、年、月、と、歴、々、小、追、り、旧、僻、さ、り、出

漸く酒を過して喧嘩を論じ。又博奕を耽り不良行を度重り。漸く  
白虫是と練り緘るも。左右に改められ。白虫甚と憤り。或時又呼付く強  
叱り辱められ。擗根却て恨を怒り。更も此及報小眼小物見せん。腹黒  
小心巧。今度大友家より觸渡せし配符を。擗根は。思ひくる  
中。此家の主父子の者。其出所不明。童が智慧膽略も尋常の者  
の子から。後父と云ふ。母も似る所少し。主も童も今度の  
配符。大躰年紀人相似。今度考と。十ハ八九ハ大友家より。尋ねて  
白虫。金道九なる。我區と。此家の奴僕。た。主父子の妻を大  
友家へ。其功。金鳥殿。仕官せ。青雲の便を得。と。悪念を生  
。或夜家内の。定。一錠の沙金。と。二三の衣服。と。竊取。跡を暗  
く。逐電。夜。日。継。豊後の白井。到。廳所。出。配符の面。似。の

者筑前國生の松原近所。名成。愛隱。任。と。見届。ぬ。松。は。り  
と言。れ。廳。吏。早速。金鳥。右の。趣。と言。上。及。々。金鳥。大。小。悦  
び。果。と。虎。躬。が。推。察。小。違。も。筑。前。生。の。松。原。の。辺。小。隱。任。と。あ。ら。白。川。堤  
小。狼。藉。せ。重。なる。即。尅。虎。躬。と。言。寄。て。此。儀。如。何。有。と。問  
々。小。虎。躬。笑。と。含。是。必定。金道。九。白。虫。て。下。先。其。拵。人。の。者。小。精  
尋。上。あ。擗。捕。せ。い。と。擗。根。と。呼。出。逐。不。回。小。渠。言。処。跡。白。虫  
の。摸。様。小。能。似。と。擗。根。先。退。し。金。鳥。小。見。て。中。々。八。拵。人。の。者。の。中。狀。白  
虫。金道。九。小。相。違。有。と。生。の。松。原。ハ。早。良。部。み。て。盤。橋。千。足。が。支。配。の。地。小  
い。千。足。が。方。へ。馳。檄。と。傳。生。捕。せ。い。但。拵。人。の。者。の。中。ハ。彼。早。良。等。と  
名。告。い。者。二。百。余。人。門。弟。有。り。い。其。者。も。荷。擔。と。相。拒。い。ち。れ。あ。ら。ん  
當。家。も。兵。卒。と。出。れ。千。足。小。力。と。添。生。捕。せ。い。と。勸。め。金。鳥。終。へ

とて垣の雅明と召出。筑前早良郡生の松原の辺早良等と云る浪人有  
渠ハ橋白鳥と見と呼ハ金道九方。新入の者有て明白なり。你火急ハ  
盤橋千足方(羽檄)と私と。彼浪人及子の者と生捕べしと下知。你も二百人  
遅率と將て早良郡(近向)千足方と添く。逃走せしと搦捕曳まれしと下  
知。さるおぞ。雅明心中ハ大ハ敬馬と云こわら体す。領堂。金鳥が面影と  
退れ。私宅へ飯。火速ハ一封の書信と書り。腹心の者ハ密意と言合。夜  
中ハおませ。片城山ハ亀山が絆(弛)到り。是亀山が片城山ハ住居せし  
より。以東密ハ雅明と文通せしと以。金道九白鳥ハ大吏と告知。人ハ為の密使  
かり。其翌日千足の檄書と書し。使者ハ渡。你此羽檄と盤橋千足方ハ  
達せよ。さの急ハ及。只大切持参。と命。其身も士平と維深と擇  
く時。且延。實ハ用意とわ。と白杵と。とホ。諸雅明ハ密使ハ夜と日ハ

継。片城山の此。弛到り。亀山太息ハ雅明の書。渡。大息。見。と大。強  
た。密使ハ疲勞と謝。一錠の金と与。飯。木高連。菟。の雅明ハ密書と示。  
取物も取終。と章。駄天の如。近。白鳥。方。弛。着。多。夜。の二更。の頃。ハ白鳥  
を。亀山。が。夜。中。還。く。未。く。と。新。入。の。困。室。へ。請。て。子。細。を。問。ふ。亀山。太。息。吐。て。言  
く。さ。り。垣。の。雅。明。忍。の。急。使。と。以。推。君。と。足。下。の。大。吏。と。告。越。し。先。此。書。信  
と。一。覽。あ。れ。て。雅。明。が。書。と。出。て。渡。る。お。ぞ。白。鳥。披。見。と。以。の。外。ハ。敬。馬。見。是。由。申  
ま。れ。大。吏。多。金。鳥。が。方。へ。推。君。と。我。が。身。上。を。新。入。せ。ハ。先。夜。逐。電。せ。し。控。根。多  
か。し。封。く。捨。た。れ。奴。と。整。小。情。と。う。け。養。置。吏。茲。ハ。及。不。悔。と。よ。と。憤。り。多  
と。亀山。制。其。議。ハ。悔。も。及。不。及。乎。斤。尅。も。早。く。退。用。意。と。肝。要。あ。れ。と。練  
る。お。よ。白。鳥。実。も。と。金。道。九。木。免。若。妻。室。ホ。と。招。寄。子。細。を。語。り。急。ハ。浴。ゆ  
を。ハ。准。備。せ。よ。と。命。下。れ。皆。大。ハ。強。死。面。と。見。命。と。誓。く。黙。然。と。う。る。お。白。鳥。が

妻俄小苦と云く仰及まをる間もたぐまらとて座中小向。人々皆苦む  
妻勿と垣の雅明今度の征兵と蒙りこれ火急小推寄来るが事。又盤橋十  
足が方へ檄書を送るも使者と急がび時日と延せむ心静小落り抑今度  
の更の起ハ雅君御身の由緒と申のひより。固小金鳥と討んと人々も告る等  
白川堤より金鳥が太宰府よりの取路を窺ひ射て取んとかりのひより金  
鳥が命數いすゞ尽む。射損のひして己小御身危るるが先頃雅君の為小  
助られ我着属を仮小雅君の御姿と変せさせ。金鳥が士平小生捕りり  
敵真の雅君の落延るを知らるるなり。彼雅君小代々生捕り着属ハ次  
の日遁る古拙小飯ら。其更より金鳥が老臣石虎躬雅君白虫殿存命有  
更と覚金鳥小勧て九列配符と廻し。樞根が辨人小よりて征兵と差向ひ  
雅明小まゝり雅君白虫殿と討つれ意なく。千足も羽檄と得更進れを明日の

二更の頃まが小當所を退るを。其跡千足が征兵向ひゆるの我より更  
の着属小命と敵と紐し釣おれて御後と追せしき。金鳥が宿運も程久  
くくばと盡果本意と遂の時節も遠くはれ。追ハ短慮を慎むと  
告終ると比々妻女ハ席上おとと外へ更小人更と知らるる。白虫龜山西童  
も備寛平白狐妻女小乗らつて告るるなりと感慨。小侍妻小水と飲せ  
呼活るれ。頃て正氣小及り夢の覚る心地。龜山少一心と安んじて白虫  
小向ひ如是靈狐の告ある上ハ今夜落るふも及む。足下ハ明日心静小支度と  
當所と落るも某雅君の御身上己小敵へ洩れを此家小居るんハ危し。今  
猶深夜にれも某隨從。木尾君も俱小夜小終て此若飯る等と議する  
小と白虫むとは意。金道丸木尾君が身支度と取帯る。龜山傾る兩童  
と伴ひく。白虫夫婦小別を告て立出世と忍ぶ身る。拒火も携む。若城山とに

て急を行小陰雲天小満く星の影も見えど。眼刺もあやぬ鳥夜かれぬ。三八右と  
往らうひたふふ。忽ちとて前路小野の野火燃出て路を照らすふど。三人是小カ  
と得是より靈狐の扶るわらわと感感と山塞と弛行する白虫ハ朝未明  
と。兼て心腹を弑しわたり人々を招れ集め後日の約定と固り衆人を飯し先  
妻と俱不見苦た雜具と取隠し。家内と灑掃して其日の暮と待て城山と赴る

靈狐靈惑千足家士 埴雅昨詳勸狐狩

大友金鳥が使者ハ雅明が言ふ謙え路を急心人もせと愆くと筑前前の住人盤  
橋千足が館に到り羽檄と傳々れぬ千足披る大友狹た我支配地ふさる者の住  
居せんハ知らる。大友家の加勢と待たるもな。今夜深更ハ征兵を差向不意と  
伐く兩人を搦捕と。潘中の緒士と集てぞ下知らる。是ハ依て俄小士率們其用  
意とたると中ハ先頃金道九木兔若が為小恥辱と蒙り。昔侍們頃波先竟

乃時こそ来つ。先頃の遺恨と晴さん。我もと好で人数ふと加らる。斯  
く千足が征兵を其寢とて抑ぐ生捕んと。日勢百余人更の頃物音のせすや  
互小制し合ひと。白虫が居宅ハ押寄る。小郎の操の内ハ旗幟とひくとまか  
さか。龍城のぞくかれぬ。征兵們素小相違し。偕ハ早く味方の機密と洩れぬ。弟  
と。と。逼集て捕り奪ると覺らる。さああれ島水煉の農民も。何程の更あらん。門と  
砕れ入も洩れと生捕よと。一ハ小喊と嘯と奔る。小郎中よりハ。多勢の聲ハ  
て。関を命し。石瓦の類と雨の如く。赤出らる。征兵們是が為小眼裏と。半は堪へて  
逃退く。征兵の組頭を励し。言申変た者ども。敵ハ鳥合の集勢。し。女  
入く。討取よと。声洩る。程下知らる。是ハ小励され。又寄付と。又内。頻小疎  
と。赤出らる。れ征兵。又。赤ま。わ。向著。志。れ。血氣の者。も。擾。て。以。く。門。を。破。り  
一。齊。小。乱。入。ら。る。小。此。時。夜。ハ。仄。と。白。と。見。ら。る。郎。の。屋。根。の。上。ハ。數。百。頭。の。狐。あ。ら。る。嘯。と

日く声て皆何國ともなく散失多し。征兵の士卒大に怪みあがり内へ乱入りて  
小敵一人たり所も小なる蕪蕪と刀を今も古建儀の類と作りけり三軍  
乃ちこれを惘果家内の体と見れば戸障子調度其体中を塵埃なく掃淨し  
衆人互小面を見合ひ平く是ハ彼早良等邪法と云く我を便ひ我を惑  
て逃失しあざりまわれまれば遠く落延ぎ入出と追蒐て生捕りと八方  
士卒とませ組頭の者ハ弛飯く千足小直煎末と松多れを千足大に怪し猶  
緒方へ追兵と馳て捜ませられども皆赤手揮て互飯り其くと思ふ者も無  
口く小言々ふと千足可為なく徒評論するのとなりたり。然る処小大友家の  
征將垣の雅明三百余人の兵卒と將と春到り。金道は白虫の存亡と尋問され  
千足手持あげ有次第を語り語る雅明ハ金道九白虫們が落延しやめて  
心中ハ怡あがり詳と驚し休む。是ハ希代ハ珍更ふ頑夫愚婦なる野

千小維ちんせういこれ由ハ皮及も。大勢おほしせいの軍卒ぐんそく乃なほ狐惑こくわくされと云義ハ倭漢やまにわんいふと例  
とばせどもあれど其等そのらうなる者邪法じやほう中と弄野干りやうけんと云く脚勢けうせいと欺あざむきも量りやうと  
渠みち小物学せうぶつがく者も多おほくく有之由あらずかれ其者們そのらうを召寄よせ彼浪人なみのり邪法を  
行ないハ不ふやと向むかひの事ことと云々いふより千足実ちんそくじつゆと等らうと弟末ていまつと呼寄よせて  
一ひとく小せう丸明まるあきら者ものも邪法じやほうを弄もよほし見聞けんぶんせるとい者一人もあらず。くハ雅明も  
此上このかみハ本國ほんこくへ互飯り金鳥公きんたうこう言いハ千ちん綱きやう義ぎの上のうへ再び金道きんたう九白虫くはくちゆうが所在そのこゝと尋ね  
るもとめると千足ちんそく小辞せうじ。兵士へいし成な從りて白杆しやくかん飯い著しやくの上のうへ金鳥小綱きんたうせうきやうと千足ちんそくが兵士們  
野干りやうけん小惑せうわくされ等らう又子の者またこのものハ落失らくしつ趣しゆと云ハ千ちん多たれ金鳥きんたう眉まゆと鬚ひげハ先まづ小せう白  
川かみ堤づみ中ちゆう橋はしふせ童どうの野干りやうけんと變へんじて逃失にせしつし奇怪きがいの事ことハ思おもへ又千足ちんそくが  
妻つまの士卒們しゆうそくの狐惑こくわくせられと不審ふしんの中ちゆうの不審ふしんされ大切たいせつの科人かじんを等らう困こやと  
逃にまさせ。千足ちんそくが不覺ふかくの罪つみハ後のち見み沙汰さたとせり。安やすくさるハ野干りやうけんの多おほく際さいと云く

度く我武威を犯し九列二島の緒まきと怖ぢる金鳥小恥辱とよする者生  
言結日断かり渠と其休小捨置む我が威勢無う如く他門の者日後指さ  
と人叟家の瓊瑾此上や有ぬ然小依て我領國と姑と九列二島小狹狩と  
催して鎮西の地小野子足も住せと你潘中の者們小狹狩の縁を觸るじ  
火急小其準備せよと大不憤てと命がも是実を金鳥が深た奸計を  
其と奈何とぬれ金鳥兼て大友皇子の吊軍と号して當今と亡しす已  
王位と踐んと恐るも非ぬの望と懐た先九列の緒士を悉く幕下小付其後  
中國を攻麻非け然して後大和の京へ攻上ると時と逆意の徒黨とて盟書  
小姓名と記す存て後小佐伯連男大串飯綱太宰和国九般橋千足丹裳甚と  
宗後と其他没くの輩十余人一味連判さるといふも大更を發さる不足  
む今度の批感と幸小九列二島小狹狩と唱へ其実小緒士を一味さるとい承引

せざる者ハ不意小攻亡さんとの心巧なり雅明ハ是と知どるといふも如より金  
鳥を亡し母妹の仇を報ぜん為小仕官せ更ぬ令色巧言阿嫂ひ金  
鳥が無道の刃を發さる度小弁舌とて勧まらる今も狹狩の縁を言  
出さるる心中小想道ハ古より和漢西朝國の手も者内小酒色小溺れ外  
小遊獵小荒む者不滅と更なり今金鳥晋く九列小狹狩せん欲さる  
とは是自滅を招く端なりと心怡びる年舌と巧や小答々るハ仰のてく非情乃  
野狐の分として度く士なる者と敗れ君の嚴威と犯し嘲弄仕るハ御身の恥辱  
何更う是小過いぬ是と捨置む時ハ探題職の御威光なく緒人の笑草と  
成りぬ惣とて田獵山狩ハ戦場の進退と士平小調煉せしむる業ふる治小  
居る乱と忘さるの二と承らる壬辰の乱にゆるとせども猶其殘黨緒國小隠  
潜る折と窺ひ新羅高麗の異賊もハ稍もこれハ皇國の遠境と犯し掠ん

とまゝ今る世に何時戰場へ出馬あらん知か。されど士卒進退を習  
ひん隻狐狩如隻ハト。最御武名四海無比者なれ君の御遊獵多れ諸人  
其行装と足とを翹ぐ待ひぬ。君臣も狩装束小花麗と。馬の  
皆具射子のち拾ま。天下の耳目を驚く。是れ九列の諸士の肝と柱  
つめて君子不重無威ともやせり。且又其御遊獵ある國の國司郡司ハ君乃  
御陣所諸士の仮屋念と入。造構を先首と御申渡あり。御領下の農民中  
田畑の高小應じて十分。今度の入用とて上納させ。一村三十人乃至五十人  
歩と出させ。射子小宛の。諸狩場ふ於ハ當國小ハ湯の山嶽豊前小ハ  
彦山鏡山筑前小ハ三笠山芦城山筑後小ハ高良山足代山肥前小ハ松浦山肥後  
乃阿蘇嶽赤幡山日向小ハ姫ヶ山嶽大隅小ハ後瀬山吉葉山其餘八枚。奉す  
る小進あらん其國の狩場の地理小従ひ深林廣野と狩させ。ふとあふ

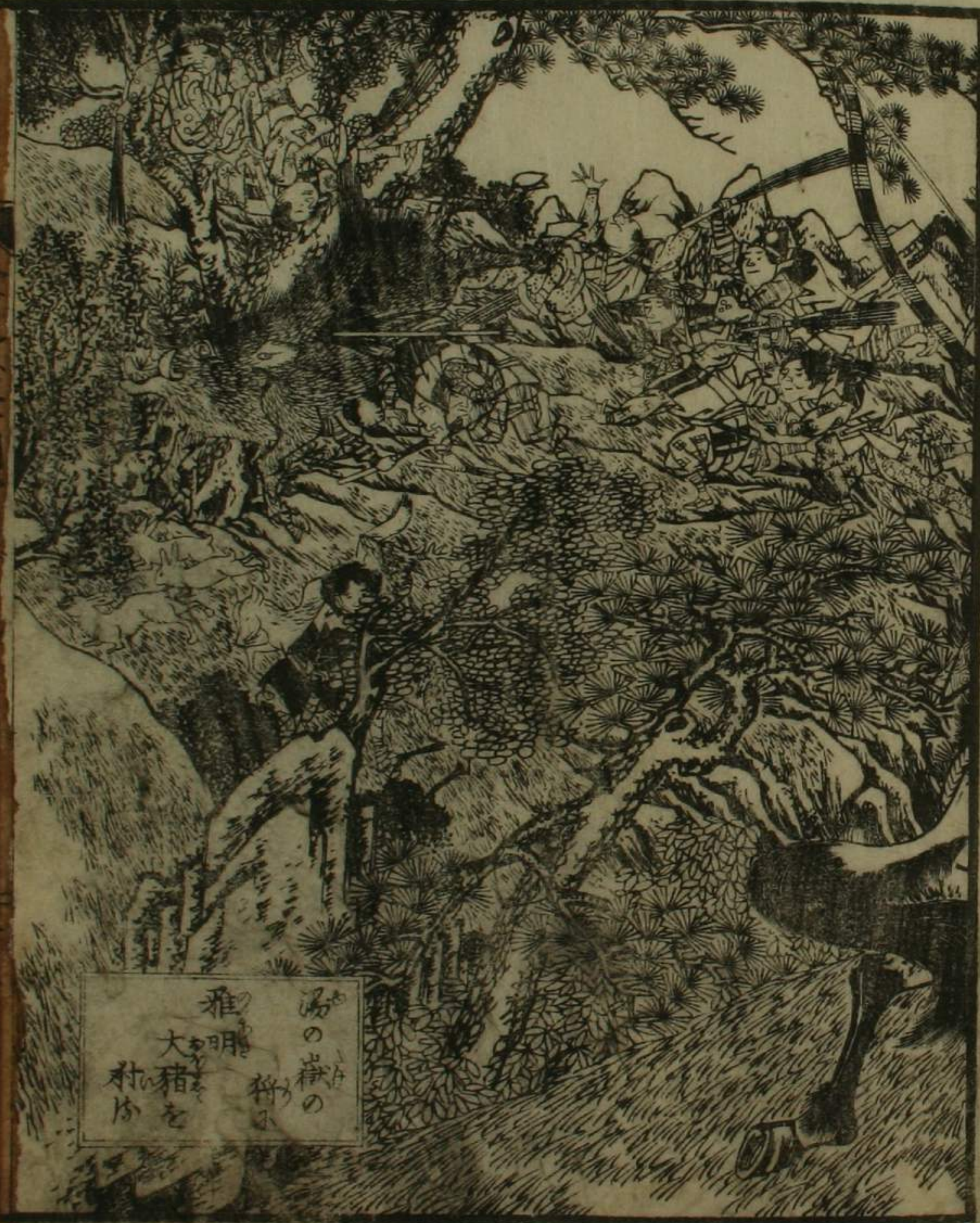
九列の野千の種を。子無尊君が格。千金の衣と十衣廿衣造りは。且又山  
野とせ。頑愚を惑と狐を狩。諸民耕作の助と。士卒進退を  
熟煉。國と強と。基と。泰平の世の御遊具。是ハ益と。御慰ハ。と。蘊  
秦張儀が舌を借。潔く説動。金烏ハ雅明が舌を。身を削。鏝  
とも。其能弁。唯。満面小笑と露。大不歡。你。言。と。赤心  
我意小協。急。緒士の面。ハ渡。民ハ裸役の義と。急度相觸。國。乃緒  
司。も狩場。仮屋の級を。為。撥。文。を廻。せ。と。命。ハ。雅明領。堂。一。て  
退。緒士。ハ。狐狩の儀。と。觸。狩装束。十。小。美。麗。と。尽。と。下。の。君。余。わ。り。と。言。渡  
。村。郷。の。農。民。も。裸。役。歩。役。の。義。と。嚴。く。地。頭。より。ハ。渡。せ。と。下。の。緒。士  
。と。俄。小。狩。装。束。と。調。小。私。財。を。抛。ち。負。た。士。六。衣。服。調。度。と。拮。却。或。ハ。他。借。し。て  
。隨。意。小。物。好。の。品。を。馳。下。民。ハ。貢。税。の。外。の。裸。役。を。雇。ら。ん。て。眼。も。悲。ま。さ。る。無。り



金鳥催狝狩 并 垣雅明射留老猪

白鳳四年十月の下旬大友金鳥ハ狝狩の準備整ハ由雅の雅明より言十々々  
依てさし湯の嶽を狩まよとて若武者三百人を擇出ハ花麩小お拾せ村  
より歩役不取一射子二千五百人前後とせ行列を定めて白杆とぞ押出  
其同銃兼日より遠近不怠かり々ね自國の者ハを更なる近國遠竟よりも  
其行装と見物せん貴となく賤となく老若男女蟻の群るごとく群集ハ通行の道  
乃西側ハ三錐の地とぞ残さむと押詰て見物する先數多の射子二様の陣笠半臂  
と著一獵狗と曳太鼓鉦割と推カ二行不別とぞ往過る續て今日の先近とて大  
野熊尾段絲威の鎧小握く緋の陣羽織と着。夷物造の太刀小熊毛の尻鞘け  
はく短刀と佩添。二所藤の握太なる弓の正中とて檜込雁鳥羽の征箭山の指  
くる竹服と負黄鵬たる馬小鏡鞍置ても兼徐くとぞ約を歩せ々々。二番月ハ

垣の雅明緋威の胴丸小。白羅紗小龍虎の繡せ陣羽織とせ々々。白銀作の太  
刀小黄金造の小太刀と佩添。白篋小節彦許カ塗て。鶺鴒の羽と以知征矢  
三十六指とぞ箆とぞ苦高肩たり。重藤の弓小金のはくちとぞ握て檜込連  
錢葦毛の鬃の尾鬃飽まて足て太く逞れ逸物小沃懸地の鞍置今漆出  
せ。如き朝黄の厚綿の鞆とせ赤長小掛。即黨小双口とせ衛足小と歩せ  
々々。次ハ歩まの兵士思の武具着て百五十八人行小歩。其次小物惣大将大友  
金鳥。額額の狩衣大紋の指貫小。白檀磨の腹巻。百濟國小。暴小せ。虎  
皮の行膝羽赤長小。兵庫鏢の九鞘の太刀小。虎皮の尻鞘掛とぞ。太  
刀掛小。結下。削の青龍の駿足小。金覆輪の鞍置て。燧玉をうりの真紅乃。厚  
従の鞆。け。些。手。綱。採。と。ゆ。と。と。赤。兼。弓。の。役。ハ。那。古。金。鍬。傘。の。役。比。出。逸  
男。水。鳥。の。役。ハ。藤。根。猿。推。銘。今。日。と。曠。と。物。好。の。具。足。着。く。隨。後。せ。り。其。後。小。百



湯の嶽の  
雅明  
大猪を  
村片



湯の嶽

五十余人の若武者若武者來來不不鏝鏝雁行雁行。後殿後殿立立石虎躬石虎躬紫系下濃紫系下濃の鏝鏝不不黃純黃純の  
陣羽織陣羽織と著著。三張三張の重藤重藤の弓楯弓楯。士東士東三伏三伏の鷲鷲羽羽の征征矢矢腹腹狭狭し  
指指く肩肩黒黒の駒駒の逞逞し銀銀覆覆輪輪の鞍鞍置置く赤赤総総の鞍鞍段段凍凍の手手綱綱の  
縹縹歩歩せせ其其外外前後前後乃乃數數多多の若若殿殿原原武武具具馬馬具具弓弓太太刀刀我我劣劣と奇奇羅  
戎戎飾飾り從從ひひ太太刀刀乃乃金金銀銀鏝鏝の裾裾金金物物旭旭映映と見見る見眼眼と  
眼眼映映古今古今未未曾曾有有の壯壯觀觀と億億万万の老老若若目目と驚驚き驚かかるる。猪猪狩狩と  
湯湯の獄獄の蕪蕪不不着着兼兼て殺殺るる陣陣屋屋伎伎屋屋小小々々休休息息行行厨厨をを用用酒酒酌酌傾傾  
けけかんかん支支度度をを纏纏く一一月月小小山山上上押押登登二二千千五五百百人人の射射子子の者者太太鼓鼓と赤赤鉦鉦をを鳴鳴  
し獵獵狗狗をを放放鯨鯨波波とと嘯嘯とと森森々々其其音音山山河河不不響響其其嶺嶺溪溪動動搖搖し  
ささかかるる軍軍戦戦不不異異ああるる情情ああるる後後ハハ肩肩とといいふふ此此國國遠遠くく兵兵革革のの為為動動  
乱乱をを命命れれ前前表表ああるると耳耳絡絡合合るる去去程程小小山山くく谷谷くく猪猪鹿鹿猿猿兎兎貉貉のの類類

數數多多狩狩ままりりてて逃逃出出るる戎戎猪猪士士の面面我我劣劣とと或或射射とと或或刺刺殺殺しし生生捕捕  
小小ささるるももままりりてて並並もも狐狐一一足足もも出出るるれれ林林鹿鹿のの森森林林草草原原をを入入りり  
居居めめああるる。麓麓へへ入入りりてて狩狩ままるる徒徒ももああるる。面面くく揮揮くく得得物物ななるる小小中中ああるる  
垣垣の雅雅明明不不勝勝獲獲物物ををせんせんとと山山の原原小小馬馬をを立立らら不不矢矢とと番番とと落落来来  
獸獸をを待待ととうう小小羊羊鹿鹿老老猪猪矢矢とと三三筋筋をを肩肩かかりり猶猶少少弱弱體體ももなな射射  
子子の者者とと散散れれ怒怒りり吼吼てて二二文文字字小小並並来来るるふふ雅雅明明得得るるとと弓弓矢矢をを満満月月の  
如如くく亨亨浩浩矢矢声声とと俣俣不不切切てて放放とと不不過過とと猪猪の首首際際ととははとと射射貫貫くく側側乃  
松松樹樹小小縫縫付付らられれもも尚尚屈屈せせとと引引外外ととままるる小小回回ももなな雅雅明明が  
放放ちち二二のの矢矢不不太太肚肚射射通通れれとと猛猛獸獸横横不不仆仆くく吐吐昔昔ととままるる雅雅明明馬  
よりより肉肉とと飛飛下下支支侍侍とと鎧鎧通通しし逆逆手手不不拔拔持持猪猪の肋肋骨骨四四枚枚撞撞切切終終小小猪猪と  
と仕仕留留るる金金烏烏高高れれ岳岳不不幕幕せせ陣陣床床机机不不腰腰くく猪猪士士の働働れれを見見物物と

居るるが。今雅明が老猪を射箇う勢矢冠早なるを。大に感賞  
し。おろ所へ雅明件の猪を即堂四人舁擔しと来り。覽小備たるを。金  
鳥声をけ。你が高名今日の狩の第一。是と當座の座衣美ふ。予るごと。白  
銀骨の陣扇を投ふ。れ雅明敬し。三拜して。や。君息身小余。予。忝く  
謝し。より。但。其猪の義。其一人。射箇。あ。い。先。三。筋。の。矢。を。負。い  
ひ。お。頼。射。箇。い。なり。先。射。中。三。筋。の。矢。の。主。も。御。召。出。右。て。御。褒  
美。賜。り。い。と。言。々。わ。と。金。鳥。雅。明。が。功。功。倍。感。し。三。筋。の。矢。を。枝  
と。せ。紀。し。る。姓。名。と。檢。め。と。れ。小。賞。物。と。予。る。ふ。より。雅。明。も。陣。扇。と。頂。戴  
し。斯。く。其。日。申。刺。造。一。山。の。隈。不。残。狩。三。面。の。得。物。を。悉。く。金。鳥。が。一  
見。小。備。へ。と。て。紀。録。を。山。の。如。く。積。上。し。獸。と。ん。甚。ど。與。入。今。六。狩。倉。も  
是。道。たり。陣。屋。小。於。く。庖。丁。を。せ。ま。の。者。を。喰。り。ち。よ。と。下。知。し。る。を。衆。人

大の勇と悦び射子と班々山を下り金鳥が本陣の五彩の純子の幔幕とせ  
緒士の伎屋も家の定紋の陣幕も吸筒行厨も八珍の膏腴と調味と酒宴  
と催し得物の猪鹿免山鳥の類と庖丁とせし主従士卒射子の者ありは  
飽まぐ小喰ひ貪り飲夜入ては數十箇所小大篝で焼立上下栄曜歡樂と寃  
く颯々躍つ酔と盡し乱酔小乗とて民の精力を勞し耘耕しる田畑を踏荒  
不頼の者ハ近辺の人家へ押入媚よれ女とて人の毒娘とも云せと無法小犯し  
辱しめ狼藉乱妨ゆる小物を。噫思かるる。上二人の不仁無道と下万平造  
見多し斯く乱行ふる。万民悲歎小沉む恨乃念ハ金鳥が身小迫り終小  
身と滅し國家と亡人妻遠く。と。諸。人。首。を。疾。し。も。額。と。あ。つ。て。を。誅。合。さ。る

五石虎躬捕夜盜 雅明止金鳥出馬  
大伴金鳥ハ湯の嶽の山狩小大の與と催し飯城の後再び隣國の内中て地を

見立遊捕せんと議し、多ふ忽ち障出来、狩倉の、須臾、其  
故を尋る、白杵の城下街、富豪の高賈有、一、夜、大勢の強盜押入、  
家内の男女と悉く縛り、數多の金錢衣服と奪取て、出んとする折、大友  
家の老臣、石虎躬郡縣の田地と檢んと、二十余人の士卒と從へ、行方、遠方、あ  
れ、五更の二、卯、キ、此家の門前と通り、く、多、賊、の、職、と、被、持、く、出  
る、然、る、り、須、波、次、盜、賊、よ、搦、捕、と、下、知、ま、れ、む、士、卒、も、心、得、ゆ、て、捕、お、う、る、ふ、ど  
二、三、十、人、の、盜、賊、物、々、と、皆、刀、と、拔、連、て、斬、て、う、ね、是、小、依、て、士、卒、も、校、合、し  
互、に、斬、つ、斬、つ、鎬、を、削、つ、闘、ひ、多、く、虎、躬、ハ、老、躰、か、つ、名、小、中、さ、へ、古、兵、か、れ、む  
自身も、太刀、拔、埽、して、斬、ま、る、お、ど、波、盜、賊、も、此、太、刀、下、の、三、四、人、切、伏、ら、れ、残、る、賊、ホ  
虎、躬、が、奮、勇、か、碎、易、し、東、西、へ、逃、行、く、と、士、卒、亦、追、蒐、く、三、人、と、生、捕、殘、る、人  
行、方、ま、れ、ど、逃、去、く、る、お、其、依、小、捨、た、れ、賊、の、死、骸、及、び、生、捕、と、曳、せ、く、邸、へ、帰

夜明て、彼三人の盜賊を曳出させ、踏回され、敢く白状せざるは猶手と  
換、く、百、般、強、く、呵、責、ま、る、小、倚、苦、痛、堪、へ、て、三、人、も、白、我、們、ハ、汝、等、前、國  
芦、城、山、の、者、小、て、首、領、ハ、此、白、杵、の、藩、中、の、武、士、あ、て、い、ひ、く、と、ど、一、人、を、支、摩、木  
高、と、名、告、今、二、人、ハ、伴、連、蒐、と、呼、い、が、兩、人、山、豪、の、魁、首、と、な、り、多、の、小、賊、を、集  
芦、城、山、の、奥、に、塞、つ、構、海、陸、の、旅、人、を、劫、し、又、市、街、村、里、と、犯、し、掠、り、の、所、先  
年、宇、津、田、守、と、中、浪、人、又、子、加、り、り、又、近、を、頃、早、良、等、と、入、又、子、池、加、り、り  
今、お、て、首、領、六、人、と、わ、り、小、賊、ハ、三、百、余、人、お、及、び、て、國、へ、手、賊、と、働、き、い、わ、り、我  
們、と、家、産、お、離、恒、産、な、れ、ど、已、更、と、得、ど、小、賊、亦、お、勸、ら、れ、近、頃、彼、群、お、い  
たり、願、く、ハ、命、を、う、と、助、め、ん、と、三、人、ひ、く、白、狀、お、と、及、り、る、虎、躬、は、さ、く、彼、木  
高、連、蒐、ハ、先、主、馬、末、田、殿、の、家、士、か、り、る、が、我、主、君、當、家、の、家、督、と、繼、ぎ、お、い  
て、し、り、兩、人、亦、遂、電、せ、お、今、隣、國、お、く、山、賊、と、わ、り、多、勢、の、狗、黨、と、集、領、を、お、い

渠們も金鳥公と恨み當家小冠せん隙を窺ひも量ぐし殊更宇津田  
守と争はん何者ぞ知れども早良等父子の者と先達て生の松原の辺に住し  
浪人あり橘白虫金道九たり彼等たる者白虫ありむんむ彼所と互退や  
たふ不足征兵を欺れ落矢し白虫たる更疑かり渠芦城山の塞に加るる上  
公愈以て油断志が先主君小此大事と言上せむを有るむとて三人の賊  
と獄中へ赤竜おれ即刻登城して金鳥小錫三人の賊と捉り義と先とて三  
人の者の白状の趣を遂に演舌ふ及たれが金鳥太小強死如是なれ彼們我小  
弓響んと時を窺ふ更治定かきより左ありむも金道九白虫彼所不在と  
狐狩を須更し置我軍馬と引率して其賊塞押寄一挙踏破り金道九  
白虫を擒り残る奴原も鹿金おせんと更もかけお言々ると垣の雅明側小居  
て是とて更須波金道九殿主従の二大更お及り金鳥彼岩へ向り龍城雜義

小保く保くする窟し我金鳥が出馬と留り左右付大望の妨とたる虎射を今度  
の征将小向せ及間の謀を以て白虫太息小虎射を討せむ金鳥と謀今更  
なりと胸裡小思惟を定め進出り金鳥小向の葦城山の賊塞と攻伐たりむん  
義ハ賊小然るむも君却馬と向り更ハ救かり抱ゆる手小千介の辱ハ龍胤  
の爲小放しと雞を割小牛の刀と不用とせし九列の探題職も脚身あり山賊  
狗黨の巢穴へ馬と向り大友家小物の用小立置る臣下と扶知せむと諸人の咲  
草小かりる事況彼塞中の徒如何なる奸計を設け君と討せむんを謀せむ  
もいふも左もたぐも橘白虫の侮をた古兵たれも君小攻詰りれ道難お及ひ  
必死を究窮屈却り猫を啣の恐かりぬいふと三軍の大將も敵と過て身  
と過は更あり近夫も其志と奪奪りす十四五支の重きと君の如く英雄小  
敵せん守増て智勇のゆえある白虫小於おや君子小事小臨て心算策と為と

こそやい旁りつて今度の征兵臣下の人々命がらふと并古巧小練れ  
む一座不在合緒すも雅明が智弁小醉実垣殿の御練言理の至極小願  
ハ君の御出馬ハ却止あり。余人を差向もやとやふと。虎躬も俱止りやれ  
金鳥心迷ひ抱を維り今度の征将小向をせつれと。同雅明答てえい。彼山塞  
の要害ハ知といへも。先主思顧の浪人們。楯籠白虫軍配と執いり尋常乃  
山賊とい日小論難。敵の虚実と探り機小臨。変ふ應。出沒進退自在  
と究り人傑あて功と遂さういん維彼とやさん。智勇兼備せ。虎躬殿  
と征将の大將と定めりや。と勸るれ。金鳥點首我も然思つる。此上ハ虎  
躬那古金鍬と従へ千五百騎の進平と將。彼賊塞へ弛向。金道丸白虫と  
擒ふして互飯よと命。と虎躬金鍬領掌。退て兵士と擇と出陣の用

大伴金道忠孝圖會後篇卷之三畢

注意をどたけしあける



